

北九州から全国へ

竹炭かりんとう JET BLACK



九州栄養福祉大学 食物栄養学部 西田みこ/矢原由依/山本梓未

1:みどり戦略との関連性

【①調達】

地域・未利用の一層の活用に向けた取り組み
→北九州市では、放置竹林が問題になっているため、竹を竹炭にしたパウダーを利用し、竹炭かりんとうというお土産として提案

【②資源のリユース・リサイクルに向けた体制構成・技術開発】

→竹炭かりんとうという商品にすることで、竹害問題をより多くの人に知ってもらうきっかけを作りたい。また、スターフライヤーと連携することで、北九州から全国へ、お土産として提案しこの課題を知ってもらう。

2:目的

北九州市の竹害問題を私たち食物栄養学部の学生のため、『食』を通して課題解決したいと考えた。地元企業さんと連携することで、より商品を知ってもらえる良い機会になると思い、連携をして行った。

現在、北九州市では、市内の竹林の約9割が、放置竹林になっており、周りの多くの植物の成長を阻害してしまっている。また、土壌の保水力の低下により、土砂災害などの危険性も高まっている。実際に、放置竹林の現場にも行き、伐採も行った。間近で問題を見ることで、『竹害』という問題の大きさを目の当たりにしたことから、この活動を始めた。

3:取り組み内容

JCOMアクション支援プロジェクト全国1位受賞

北九州市の課題を食で解決するプロジェクトをjcom主催のコンテストに応募！
最終審査まで残り、全国で1位を受賞した。竹炭の取り組みを、JCOM密着取材して頂いた。



企業さんとコラボ・商品開発始動！

北九州の和菓子で有名な「きくたろう」さんと、地域に根付くお土産を北九州から全国へ発信するため、北九州の航空会社「スターフライヤー」さんとコラボさせて頂いた。企業の方にアドバイスをもらいながら、試作を重ね商品開発を行ってきた。



北九空港祭でネーミング決定!!

北九州空港祭で、竹炭かりんとうを試食してもらい、名前の投票をしていただいた。
商品名は「竹炭かりんとう JET BLACK」に決定！
地元高校生にも参加してもらい、高大連携で取り組みを行った。大学生は商品開発、高校生はマーケティングを担当してもらい、竹炭かりんとうが認知されるように、みんなで考えた。



市長表敬訪問へ！

市長表敬に伺い、武内市長からお褒めの言葉を頂戴した。また、多くのメディアにも取り上げて頂き、「竹炭かりんとうJET BLACK」を多くの方に知って頂くことで良い機会となった。
さらに先日北九州市で行われた国際連合会議にて、北九州のお菓子として配布された。北九州だけでなく、とどまらず世界に発信できた機会となった。



4:結果

北九州の企業2社と連携し、竹を活用した商品の開発を進め、何度も試作を重ねることで、商品化に向けた具体的な形が見えてきた。地域課題の解決に取り組むことの難しさや、やりがいを実感することができ、商品化が実現することで、北九州の竹害問題について、まずは、認知をしてもらうこと、そして、売り上げの一部を小倉城竹あかりへ寄付することにした。

5:まとめ・考察

今回の取り組みを通して、北九州市における「竹害」の深刻さを改めて理解するとともに、その課題に対して私たち食物栄養学部学生として、「食」を通して課題解決することができたのではないと思われる。放置竹林は景観や生態系だけでなく、防災の面でも問題を引き起こすが、それを地域の資源として活用できれば、環境・経済・教育の面で新たな価値を生み出すことができる。今後も地元企業と連携しながら、持続可能な課題解決のモデルを考案していききたい。